

令和2年度 中野区立桃園第二小学校 経営計画

<p>学校教育目標</p>	<p>中野区教育委員会の教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」をふまえ、 人権尊重の精神を正しく理解し、豊かな心をもった人間の育成を目指し、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かな子ども、「考える子」「思いやりのある子」「元気な子」の育成を図る。</p>		
<p>目指す子ども (幼児・児童・生徒)像</p>	<p>考える子…基礎的、基本的な内容を理解し、興味・関心を高めて学び、思考力・判断力・表現力を身に付けて、主体的・対話的に学ぶ子 思いやりのある子…優しい心で他者とかかわり、互いのよさを認め、励まし合い、喜び合い、高め合うことができる豊かな感性をもつ子 元気な子…運動に親しみ、自分の健康に目を向け、すすんで心身を鍛え、健康の保持増進と体力向上に努める子</p>	<p>目指す学校 (教師像を含む)</p>	<p>「子どものために、子どもとともに」を合言葉に、子どもを第一に考え、全教職員が一丸となって働く学校 子どもが、安心して生活し、自分の力を発揮する喜びを得られる学校 子どもが、できる喜び、分かる喜び、共に学ぶ楽しさを実感できる学校 教職員が互いに切磋琢磨して、指導力や組織力を向上させる学校 子どもの教育に当たって、保護者や地域等と連携し、地域と共に歩む学校</p>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<p>本校は、子どもを第一に考え、「子どものために、子どもとともに」を合言葉に、全教職員が一丸となって働く学校、保護者・地域と連携・協力する学校を目指す。これからの新しい時代を生きる子どもたち一人一人が、個性と能力を発揮し、人間性豊かにより高い自分の夢や希望を実現できるよう、学校は、常に最善を目指して教育環境を整える。そのためには、一人一人の子どもの実態や心の変容を的確に把握し、明確な指導目標のもと、組織的・計画的な教育活動を展開する。教師にとって、授業力を磨くとともに、児童理解力やコミュニケーション能力等を高めて学級経営力を磨くことを最優先の課題とする。チーム学校として、すべての子どもをすべての教職員で導き、支え、育てる。教職員は、教育課程の充実、安全で清潔な施設、正確・迅速な事務処理等について常に努力を重ねる。自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、一丸となって行動し、苦勞があってもやり遂げるチームとして教育に取り組む。教職員は、子どものために、変化に臆せず、自らすすんで工夫・改善・創造に取り組むとともに、指導技術や職務にかかわる知識・技能を、互いに交流し合い、磨き合う。過去の功績や成功に執着せず、新しい時代に対応した学校教育を創造する教職員集団を目指して、常に建設的に議論し、異論に学び合う。教育活動の充実のために、教職員一人一人の心身の健康と、教育に携わるものとしての充実感のもてる職場とする。計画的で一貫性、透明性のある教育を実践し、子どもたちが自信をもって力を発揮することができるようにするとともに、事故を防止する。学校経営方針及び、教育計画の十分な説明と学校公開、保護者会、教科や道徳の授業地区公開講座、学校評議委員会、学校関係者評価委員会等を計画的に行い、「保護者、地域に開いた信頼される学校」を目指す。</p>		

今年度の重点

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>学びに向かう力の育成 すべての子どもが活躍する授業を行います。子どもたちが、まちがいを恐れず、問題解決に取り組み、自分の考えをもって表現できるようにする。 思考・判断・表現する力、対話・協働する力の育成 すべての子どもが、自分の考えをもち、言葉や図等で表現し、友達やおとなと対話し、考える深められるようにする。 基盤となる基礎的・基本的な知識・技能の定着 全国・都・区の学力調査において、平家員正答率で、東京都平均を10ポイント上回る。東京ベーシックドリルの前学年診断テストの正答率100%を実現する。</p>	<p>学力向上委員会の中に、「特別授業・知的好奇心」部会を作り、教員が主体的に外部教育力を活用できるようにする。 分かる・できる・達成感のある授業、面白い授業を実践して、理解を確実にし、児童の満足度90%を達成する。 学力向上委員会の中に、「探究的学習」部会を作り、全学年において、生活科・総合的な学習の時間の中で探究的な学習に取り組む。 夏休み明けには、全児童が探究的活動の成果を発表する。年度末には全学級でプレゼンテーションを行う。 学力向上委員会の中に、「基礎・基本定着」部会を作り、朝の学習タイム、家庭学習における児童が主体的に学習に取り組む力を育成する。 家庭学習習慣を確立する。東京ベーシックドリル前学年診断テスト正答率100%の児童が学級の9割を占めるようにする。</p>
<p>2 巡回校としての特別支援教育の充実と保幼小中連携</p>	<p>研究報告会において、巡回校と拠点校の連携についてのモデルを示す。 研究報告会において、「ユニバーサルデザイン桃二モデル」を発表する。 「特別支援教育における保幼小中連携」を発表する。</p>	<p>拠点校と強固に連携した特別支援教育体制を確立し、中野区の標準モデルとして11月13日に示す。 ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法を確立し、授業改善を全教員が行う。 毎月のOJT研修、校内研究全体会で発表し合い、全教員で共有する。 小学校のスタートカリキュラムと、幼児教育における育てたい10の力を関係づけた教育を実践する。 学力やキャリアパスポートの円滑な接続を行い、中学校と連携する。 特別支援教育、ユニバーサルデザインの視点で、近隣幼稚園、中学校と連携して指導方法を共有する。</p>
<p>3 安心・安全な学校づくり</p>	<p>児童理解に基づく「いじめゼロ」学級経営・授業経営を全教員が行えるようになる。不登校ゼロ、児童虐待悪化ゼロを実現する。 校内における安心・安全体制を確立する。 保護者・地域の学校への満足度、信頼度9割以上 開校100周年記念行事の成功</p>	<p>いじめの早期発見、早期対応、早期解決に全教員で行う。 不登校ゼロ、児童虐待の早期発見を行う。 交通安全指導、不審者侵入防止、台風等の対応についての基本方針を示して、学校・家庭で取り組めるようにする。 新型コロナウイルス感染症等の感染症の予防体制を確立して、学校・家庭で取り組めるようにする。 児童職責による組織的対応を週に一度の校内点検と報告、毎日の安全点検と報告方法の改善する。 積極的保護者連絡と称して、全教職員が丁寧かつ細やかな保護者への連絡を行い、安心感を確保する。 学校便り、ホームページ、門外掲示板、配信メールを積極的に活用して、情報を発信し、教育活動の視覚化を行う。</p>
<p>4 【学校における働き方改革】</p>	<p>全教職員の超過勤務を週45時間以内にする。 週3回は18時までに退勤できるようにする。 リモートワーク体制を確立する。 地域の支援を受けた人材・人員の確保によるボランティア体制を確立して、教員の職務を学習指導と教育相談に集中できるようにする。</p>	<p>教育計画の充実を図り、質が高く生産性の高い教職員集団を作る。 週1日以上17時台退勤が可能になる日課時程を構築する。 教員が教材研究や教養を深めることに取り組める時間を生み出す。 リモートワーク、リモート会議の仕組みを7月までに構築し、長期休業中はリモートワークを主に行えるようにして、超過勤務時間と感染のリスクを減らす。</p>

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価		
			評語	取組に関する指標(可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標	考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間					
1	外部教育力を活用する体制を確立する。児童の授業満足度90%を達成する。	「特別授業・知的好奇心」部会が、年間計画を作る。全学年で取り組む。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	夏休み明けには、全児童が探究的活動の成果を発表する。年度末には全学級でプレゼンテーションを行う。	「探究的活動」部会が、基本方針と年間計画を作る。全学年で取り組む。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	家庭学習習慣を確立する。東京ベシックドリル前学年診断テスト正答率100%の児童が学級の9割を占めるようにする。	「基礎・基本定着」部会が、家庭学習の進め方、東京ベシックドリル活用の方針を示し、前学年で取り組む。	A	30回以上実施し、お礼感想の手紙を書けた	A	目標達成率…30回以上+α							
			B	30回以上実施してきた。	B	目標達成率…30回以上							
			C	20回以上実施できた。	C	目標達成率…20回以上							
			D	20回に満たなかった。	D	目標達成率…20回未満							
2	拠点校と強固に連携した特別支援教育体制を確立し、中野区の標準モデルとして11月13日に示す。	特別支援教育コーディネーターが中心となって、支援児童の把握と対応方針を検討する校内委員会を運営する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法を確立する。	特別支援教育校内委員会のメンバーと研究推進委員会のメンバーを兼任する組織を作る。研究主任を中心に桃	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	特別支援教育、ユニバーサルデザインの視点で、近隣幼稚園、中学校と連携して、安心できる接続のための指導方法を共有する。	特支コーディネーターと1学年主任が中心となり、桃ニスタートカリキュラムを確立する。進路主任がキャリアパスポートの作成体制を確立する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
3	いじめの早期発見、早期対応、早期解決に全教員で行う。不登校ゼロ、児童虐待の早期発見を行う。	学年主任、生活指導主幹、副校長への迅速な報告・連絡・相談体制を確立し、維持する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	交通安全指導、不審者侵入防止、台風等の対応、感染症の予防についての体制を確立して、学校・家庭で取り組めるようにする。	6月までに、すべての案件に関する基本的方針を保護者・地域に通知する。感染予防については11月に再通知する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
	全教職員による組織的対応と、丁寧かつ細やかな保護者への連絡を行い、安心感を確保する。情報を発信し、教育活動の視覚化を行う。	副校長、副校長補佐、主幹教諭、生活指導主任の責任のもと、全教員の保護者対応を監督する。情報主任を中心に毎	A	十分にできた。	A	目標達成率…9割以上							
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…8割以上							
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…7割以上							
			D	不十分であった。	D	目標達成率…7割未満							
4 働き方改革	教育計画を充実する。週1日以上17時台退勤を実現する。長期休業中は、リモートワークを中心に職務遂行する。	校長の指導のもと、情報部を中心に、Google Classroomを活用したリモートワーク、リモート会議の仕組みを7月までに構築する。	A	10割の教員が週の在校時間を60時間以内にできた。	A	目標達成率…10割							
			B	9割の教員が週の在校時間を60時間以内にできた。	B	目標達成率…9割以上							
			C	8割の教員が週の在校時間を60時間以内にできた。	C	目標達成率…8割以上							
			D	週の在校時間を60時間以内の教員が8割未満であった。	D	目標達成率…8割未満							

* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある